

2月 <b>例会</b> 個人 <b>山行報告書</b>		報告者	江頭	参加メンバー	CL;江頭,SL;金子,浜島,村越,地形;渡辺,気象;亀山,装備;町田,会計;松中,天野,渡辺(育)さん,須藤さん
		報告日	3月8日		
山域	奥美濃	山行日	07年2月23日(金)~07年2月25日(日)		
山名	野伏ヶ岳・毘沙門岳・イトシロスキー場				
山行目的	雪上技術の向上		コースタイム(天候:天気図記号)		

配布先  
集会:10  
山行:1  
リーダー  
原紙:集  
会担当者



2月23日(金)晴 19:10 N1駐車場発 20:50 瓢ヶ岳PA着 22:00 民宿おしたに着	2月25日(日)晴 06:30 起床 07:00 朝食 < 毘沙門岳 > 8:00 民宿「おしたに」 9:00 桧峠(白鳥にて買出し後) 10:00-10:40 毘沙門岳 11:30 桧峠 11:45 民宿「おしたに」 < B班 > イトシロスキー場着 09:00 イトシロスキー場着 11:00 発  11:30 民宿おしたにで 餅つき大会 13:00 民宿おしたに発/解散 15:30 部室立ち寄り 16:00 N1駐車場解散
2月24日(土)晴 < A班 > 野伏ヶ岳 06:30 起床 07:00 朝食 08:30 林道口発 09:00 和田山牧場着 10:50 タル外尾根下 12:05 野伏ヶ岳山頂着 13:00 発 15:00 和田山牧場着 15:45 林道口着 16:30 民宿おしたにに着 < B班 > イトシロスキー場 08:30 民宿おしたに発 08:45 イトシロスキー場着 16:15 スキー場発 17:00 民宿おしたに着  18:00 夕食/懇親会	

### < 山行報告 >

2月度例会である。山域は昨年と同じ奥美濃・石徹白。行動は山スキー班、ゲレンデスキー班の2班に分れ、それぞれ技術を磨く趣向である。23日は刈谷発の町田車、亀山車、豊田発の渡辺車が瓢ヶ岳PAで合流の後、予約の民宿「おしたに」さん着。迎えていただいたご主人、女将さんに挨拶の後、明日の健闘を祝して簡単に懇親会をして就寝。夜勤明けの村越さんは24日に石徹白入りとなった。

### < 2/24 A班 野伏ヶ岳山スキー >

朝から好天。美味しい朝食を摂った後、各自身支度を整える。ゲレンデスキーのB班に見送られ、A班は車で林道始点まで移動。山スキー、スノーシューとなつてまずは和田山牧場跡を目指す。林道下部ではところどころ雪解け水が流れ出し、地面が露出してしまっていて、そのたびにスキーを外すこと3度、4度。オール新調の山スキーセットが重く感じ、ペースが上がらず。先行の亀山さん、金子さん、町田さん、渡辺さんにどんどん遅れる。和田山までやっとのおもい(重い)。ここでは他パーティも散見され、テントを設営されるところもあった。

小休止の後ダイレクト尾根を目指してしばらく雪原に行く。尾根の下部では風弱く、日差しがあるので各人暑さにたまりかね、衣服調整で再び小休止。ここで浜島さんからtelが入り、下の池で我々登頂隊をお待ちになるとの連絡を戴いた。私は足かせに感じたスキーをザックに括ることにした。しかるに樹林の枝にスキーの頭がよく引っかかってくれ、いちいち背をかがめて進むことになった。加えてつぼ足が時々股下までもぐり、抜くのに苦労する。樹林を抜けると何とか雪が締まってくれ尾根最上部でやっと楽になった。頂上で待機中、こんどは夜勤を終えてこの日到着の村越さんからtelが入る。ダイレクト尾根中間地点に迫っているが、登頂には時間がなく我々先行隊の下りと出合った時点で一緒に戻る判断とのこと。登頂隊で記念撮影の後、スキーで下る。尾根上部はクラスト、下部はザラメと樹林、さらに馬の背尾根のためにスキーができない。町田さんの後を追ってデラパージュでずり落ちる。金子さん曰く、「最悪のコンディション」。うーん同感。村越さんとダイレクト尾根上部で遭遇。そして尾根下で気長に待って戴いた浜島さんに申し訳なく思いながら合流。後半調子を落とされた渡辺さんと共に林道を下り駐車地点に戻った。フーッ。お疲れ様でした(江頭 記)。

### < リーダー所見 >

風もなく、穏やかな野伏ヶ岳を楽しめた。思いのほかメンバの行動ペースに差が出てしまい、パーティが大きくバラけてしまったのは大いに反省しなければならない。それでも携帯電話が通じたおかげで下山前に合流が出来たのは有難い。暖冬にあって、もはや早春の野伏ヶ岳であった。

確認  
(リーダー)  
江頭  
2007.3.8  
頭

作成  
(報告者)  
江頭  
2007.3.8  
頭

## イトシロシャーロットスキー場(07.02.24、25)

山行部隊を見送った後、8:30に宿を出発し、イトシロシャーロットタウンへ向かった。気温は - 2 だが日差しがあり、暖かく感じられた。スキー場中央にある第1リフトに乗り、まずは足慣らしに初級コースへ。天野さんを先頭に、渡辺さん(奥様)、須藤さん(渡辺さんのご友人)、松中が続く。昨夜は雪が降っていないようで、斜面の所々がアイスバーンになっており油断すると足を取られそうになる。スキー場は、第1リフトをはさんで右手に初級コース、左手に上級・林間コースがある。林間コースの距離は長い、雪質が良く、気持ち良い。上級コースは、アイスバーン+急斜面(最大傾斜35度)で、スリル満点なコース。颯爽と滑っていく天野さんを追うように私たちもヒヤヒヤしながら滑る。スキー場の規模はそれほど大きくもなく、午前中の2時間でほぼ全てのコースを滑ってしまった。それでも青空の下、遠くに山々を眺めながらのスキーは最高である。

午後になると初級コースが混んできたこともあるが、リフトを降りる度に「上級コースを滑ろう!」という皆さんの意気込みとチャレンジ精神には、自分よりも若さを感じられた。急斜面を緊張しながら皆の後を追う(おかげで鍛えられました)。急斜面を過ぎると天野先生のスキーレッスンが始まった。2時間ほど滑り、休憩。その後は16:15ごろまで、ひたすらノンストップで滑る。上級コースの急斜面も止まらずに滑れるようになった。レッスンの効果があったようだ。

次の日は山行部隊の渡辺さん、金子さん、村越さん、江頭さんも加わり、にぎやかになった。昨日の山スキーでは思うように滑れなかったようで、ストレスを発散させるかのような華麗な滑り。あっという間に追い抜かれ、姿が見えなくなってしまった。この日も色々なコースを滑ったが、距離もありトレーニングになるということで林間コースをメインに滑っていた。皆、思い思いのスキーを楽しんでいたようだ。11:00にはスキーを終え、宿に戻ると餅つきの準備ができていた。本日メインイベントの餅つき大会。ご主人がついて下さった餅をきなこ、餡子をつけて食べる。やわらかくて美味しい。豚汁も用意されており、おしたに様には大変お世話になりました。皆で集合写真を撮った後、13:00ごろ「民宿おしたに」を出発した。(松中さん 記)

## 毘沙門岳(07.02.25)

ルート図(地図を見て正確に)



2.5万分の1地図:石徹白[北西][南西]

民宿「おしたに」より、単身、車にて檜峠(白鳥にて買出し後)まで移動し、白鳥高原スキー場奥の毘沙門岳を目指す。スキー場ハウスの左脇を抜け、間もなくしてスノーシューを付ける。

スキー場はスキーヤー・ボーダーで結構賑わっている。晴天、風も無く、まばらな樹林の雪の緩斜面をスイスイと登って行く。

間もなくスキー場の上部へ出ると、正面に毘沙門岳が立派に迫って見える。

しばらく歩くと一旦鞍部へ下り、そこからは急登である。

ストックを利かせスノーシューはクラストした雪面を確実に捉え、効率よく私を運んでくれる。

ブナの原生林の間を登って行くと、360度の眺望を楽しめる、毘沙門岳の頂上へ立った。

昨日登った野伏ヶ岳を始め、別山、大日ヶ岳、鷲ヶ岳、能郷白山…絶景である。

頂上の雪を解かし熱々のインスタントラーメンをすすり、お腹を満たし往路を下山する。(亀山 記)



【野伏ヶ岳山頂】



【スキー場上部より毘沙門岳】



【毘沙門岳頂上】



【毘沙門岳より大日ヶ岳】



【こねる】



【構える】



【おしたにご主人、女将さんと 村越さん撮影】